

Korg SDD-3000 Digital Delay

モダンロックとポップスに革命をもたらしたディレイ

1982年に発売されたKORG SDD-3000 Digital Delayは、U2のギタリストであるThe Edgeによって人気を博したサウンドを忠実に再現し、ロックの歴史の中で楽器に優しいアナログサーキットを使いこなす13ビットのディレイを実現しました。

KORGからエンドースされたUADとApolloインターフェイス用のKORG SDD-3000 Digital Delay プラグインは、80年代のエフェクト・マニアのアイコンともなったユニークなアナログ/デジタルサーキットをエミュレートしながらも、現代のプロダクションやワークフローのための拡張機能も追加されています。

新機能:

- 完全に許諾を得たプラグインによって伝説的なKORG SDD-3000 Digital Delayの魅力的なディレイやモジュレーションサウンドを歌や楽器にあたるのが可能
- ギター、シンセ、ボーカルなどにユニークな喰いつきの良い13ビットのディレイ、フェイズ、フランジャー、コーラスを与える
- SDD-3000のアナログプリアンプ・ステージとUnison™ テクノロジーを搭載したApolloインターフェイスのダイナミックな相互作用を活用
- ワークフロー強化のためにテンポシンク、複数のステレオモード、リズムカルなサブディビジョンへの対応などの新機能を提供

象徴的なラックユニット

U2の *The Unforgettable Fire* から始まり、The Edgeは、KORG SDD-3000のレスポンスとカラフルなサウンドパレットを使用してギターの質感を新しいステージに上げました。 *Unforgettable Fire* セッションでは、Daniel Lanoisがユニットを迎え入れて以来、スタジオとステージでの定番となり、Blurのアルバム、13でもKORG SDD-3000 Digital Delayが使用され、大きな影響を及ぼしました。

詳細なサーキットエミュレーション

Universal Audioは、有名なアナログ・プリアンプ/アウトプット・セクションを巧みにキャプチャーし、ビンテージの“ゴールデンユニット”のKORG SDD-3000 Digital Delayを緻密にモデリングしています。UAD KORG SDD-3000 Digital Delayプラグインは、JRC製のオペアンプでクラシックなプリアンプ、ブースト、オーバードライブ・ペダルと同じタイプのもので、この超高速アナログサーキットを正確にエミュレートしています。

ディレイユニットのレジェンド

1秒のオールドスクール、13ビットディレイKORG SDD-3000は、パーカッシブなリズムリピートで知られています。オリジナルのように1023mSecまえ任意の値を選択することができ、プラグインのみの機能として、シンクコントロールによりリピートをDAWのテンポに合わせることができます。プラグインのディレイタイム・ウィンドウには、様々なルーティングバリエーションのために便利なドロップダウンメニューも装備しています。

スウィーリー・グッドネス

KORG SDD-3000プラグインもモジュレーション・セクションは、エコーに深みとモーションを加えます。インテンシティ・ノブを使用してリピートのピッチバリエーションを調整し、周波数コントロールは繊細な動きやビブラートを変化させ、Daniel Lanois風のピローディレイには非常に重要です。最後に、ウェーブフォーム・セクターでは、他のどのユニットでも得られないような複雑なフェイズ、フランジャー、コーラス・エフェクトを実現します。

フィードバック、ホールド、フィルタリング

KORG SDD-3000プラグインのリジェネレーション・セクションは、アンビエント・エフェクトが大好きな人達の夢です。簡単なスラップバックでロングトレイルにするか、フィードバック・コントロールを使用して瞬間的に発振させることができます。また作成したものを気に入った場合、“ホールド”ボタンを押して、そのサウンドをホールドすることができます。また、フィルターコントロールは、トーンシェイプを提供し、ギター、シンセ、ドラム、ボーカルなどに最適なりピートやエア感、を加えることができます。



ApolloインターフェイスのためのUnisonテクノロジー

UAの画期的なUnisonテクノロジーを駆使したKorg SDD-3000プラグインは、ラックユニットのレジェンドとなったオリジナルのアナログとデジタルのすべての良さと、インピーダンス、ゲインステージ、またトリッキーな動作を再現可能です。



Korg SDD-3000 インターフェイス

操作について

このセクションでは、Korg SDD-3000の一般的な技術概要を紹介します。個々のコントロールの詳細については、この章で後述する[Korg SDD-3000のコントロール](#)を参照してください。

特長

- The Edge、Daniel Lanois、William Orbit等に使用されている名機KORG SDD-3000 Digital Delayのサーキットを完全にモデリング
- KORG SDD-3000 Digital Delayのアナログ入力、出力アナログプリアンプの正確なエミュレーション
- デイレイリピートをシェイプするためのフィルターサーキット
- フェイザー、フランジャー、コーラス、ダブリング・エフェクト用のウェーブフォームとモジュレーション・セクション
- Unisonテクノロジーにより、Apolloインターフェイスを使用した時に本物のギターとの相互作用が可能
- ノート値でDAWとのテンポシンク可能なシンクモード
- モノとディスクリート・ステレオオペレーション
- KORGによって許諾を受けた唯一、もっとも需要のあるデジタルデイレイのプラグイン

クラシックな80年代のアナログキャラクター

1980年代のKorg SDD-3000の設計は、デイレイサーキットが使用されていないときでもブーストや音色の質感を得るために非常に価値のあるものでした。UAは、SDD-3000のクラシックなアナログプリアンプとサポートサーキットをモデリングすることに細心の注意を払いました。

アッテネーター

Korg SDD-3000のインプットアッテネーター・サーキットは、本来はインプットシグナルのレベルに合わせてデイレイのゲインステージを設定するためし使用することを目的に設計されていました。: -30 dB (Hi-Zインストゥルメント)、-10 dB (アンバランス/コンシューマー・ラインレベル)、+4 dB (バランス/プロフェッショナル・ラインレベル)です。デイレイサーキットは、ラインレベルで動作を行うので-30dBを選択すると、シグナルは、JRCオペアンプなどによるSDD-3000のクラシック80年代エフェクトの音色のキャラクターをアンプステージで加えます。

ラインレベルの信号が-30dBモード(または+4dBの信号が-10dBモード)でインプットされると、SDD-3000のファンに愛されているサチュレーションと“クランチ”サウンドが得られます。様々なアッテネーターの設定とレベルコントロールの設定の組み合わせを試すことでサウンドのカラーや歪みのバリエーションを得ることができます。

低ビットレートによるデジタルの輝き

今日では、当社のデジタルハードウェアのハイクオリティな“色付けのない”16、または24ビットになれることがあります。しかし、KorgがSDD-3000を設計した時点では、そのようなコンバーターは使用できないか、高価すぎて実用的ではありませんでした。これは、“12ビット+1”システムの選択を導き、単なるリピートをはるかに超えたざらついたオーガニックな13ビットのサウンドを与えました。サンプルレート・ベースのモジュレーションシステムは、このクラシックなユニットのユニークな“初期のデジタル”のキャラクターをさらに引き出すことができます。

ワイドレンジのディレイとモジュレーションエフェクト

Korg SDD-3000は、ワイドレンジのディレイタイムと多くの多数のフィルタリングとモジュレーション・オプションを備えており、美しいフェイザー、フランジャー、コーラス、ダブリング、ディレイエフェクトを生成することができます。ディレイ+コーラスや、その他のコンビネーションエフェクトを目的とする場合も、予算やエフェクトラックのスペースを必要とすることなく複数のSDD-3000インスタンスを積み重ねることが可能です。



Unison™による相互作用

Korg SDD-3000は、Universal AudioのApolloオーディオインターフェイスのHi-Zインストゥルメント・インプットとのインテグレーションを行うためにUnisonテクノロジーを備えています。Korg SDD-3000をApolloのconsoleアプリケーション内の専用Unisonインサートに起動すると、ApolloのHi-ZインプットサーキットがKorgディレイのインプットインピーダンスに物理的に適応し、インストゥルメントのインプットシグナルにビンテージのハードウェアのようなレスポンスとステージングのやり取りを得ることができ、この80年代のクラシックサウンドの愛された不完全なを提供します。

さらにUnisonゲインステージング・モードでは、Apolloのハードウェアコントロールを使用してレベルやアッテネーターコントロールを調整することができます。

注: Unison Hi-Zインタラクションは、SDD-3000がApolloのconsoleアプリケーション内のUnisonインサートで起動されている場合にのみアクティブになります。詳細については、Apolloソフトウェアマニュアルの“Unison”の章を参照してください。

追加機能

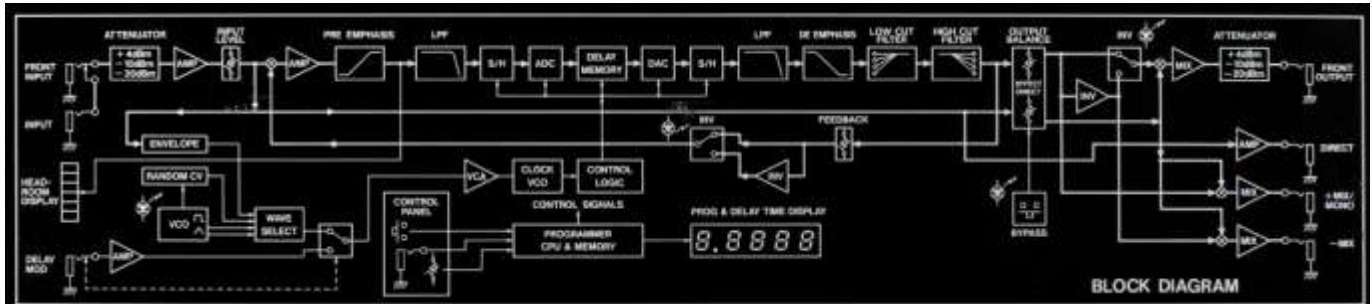
オリジナルのKorg SDD-3000ハードウェアはモノラルと専用のドライアウトのために配線を行わなければなりませんでした。UAD Korg SDD-3000プラグインは、ドロップメニューから5種類のアウトプットルーティング・オプションを提供します。さらに専用のポジションコントロールを使用してステレオフィールドのお好みの位置にエフェクトを配置することができます。

アーティストプリセット

SDD-3000には有名なユーザーのアーティストプリセットが含まれています。アーティストプリセットはファクトリーバンク内にあり、ホストアプリケーションのプリセットメニューからアクセス可能です。アーティストプリセットはUADインストーラーによってインストールされるため、Apolloのconsoleアプリケーション内でも使用可能です。プリセットは、UADツールバーの“Settings”を使用してロードすることができます。(詳細については、UADシステムマニュアルの“UADパワードプラグインを使用する”を参照してください。)

シグナルフロー

シグナルフローは、オリジナルのSDD-3000ラックユニットの上に印刷されていたものです。プラグインには、外部コントロール入力はありませんが、そのアルゴリズムはオリジナルハードウェアのシグナルフローを忠実に再現しています。



Korg SDD-3000シグナルフロー・ダイアグラム

Korg's New SDD-3000 Programmable Digital Delay

Korg, world leader in electronic musical products, brings you a Programmable Digital Delay that really racks up points with recording engineers, pro sound men and musicians. It combines superb audio specs, long delay time and programming versatility at a price (under \$1,500) that makes the SDD-3000 the most cost-effective signal processor on the market today.

IT'S GOT THE EFFECTS...

- Chorus
- Automatic Double Tracking
- Positive and Negative Flanging
- Resonant Flanging
- Vibrato
- Doppler Pitch Shift

AND THE FLEXIBILITY.

- **One-Touch Programming**—9 different user changeable programs, plus manual setting. Programs can be edited temporarily or permanently and/or copied. Instant selection of programs via front panel or footswitches.
- **Expanded Modulation Section**—including 3 waveforms, envelope follower and separate external input.
- **A "Random" Waveform**—provides authentic doubling and other effects.
- **4-Position Low and High Cut Feedback Filtering**—for natural sounding echoes and unique special effects.
- **Versatile Stereo Capability**—includes both Direct and Sum & Difference outputs.
- **3-Position Input and Output Attenuation**—matches up to all types of instruments and sound systems.

THE SPECS...

- **0-1023ms Delay**—with 20Hz to 17kHz frequency response at all delay settings
- **94dB Effect Dynamic Range** and, **110dB Direct Dynamic Range** without compander "breathing" effects
- **13 Bit Audio Conversion** for low distortion (0.03% typical)

KORG... we put it all together

Exclusively distributed by Unicorn
Westbury, N.Y. 11590

© Unicorn 1982

For SDD-3000 Digital Delay literature, write: Unicorn, 89 Frost St., Westbury, N.Y. 11590. For demo record and full Korg catalog, enclose \$3.00.

If you want a sophisticated delay at an unsophisticated price, see and hear the new SDD-3000 at your Korg dealer today. For name of nearest dealer call: (800) 645-3188. In N.Y. (516) 333-9100.

Korg SDD-3000の広告、1982年頃

Korg SDD-3000のコントロール

コントロールグループ

関連付けられたコントロールは、プロセッサの機能によってグルーピングされています。この章のコントロールの説明も同様にグルーピングされています。

インプット

このセクション特有のプリアンプを備えたKorg SDD-3000インプットの“アッテネーター”回路を使用することができます。



INPUT elements

インプットアッテネーター

ステップ式入力のアッテネーターは、SDD-3000のインプットに接続された信号のレベルをマッチングさせるために使用します。-30 dBの設定がもっともゲインが高く、インストゥルメントレベルの信号を対象にしています。-10 dBと+4 dBの設定は、ラインレベルの信号を対象としており、+4 dBは、最小のゲインを提供します。アッテネーターの設定を変更することで様々な音色のオプションが提供されます。

注: アッテネータースイッチの値は、直観的ではないかもしれませんが、数値が小さいほど、ゲインが高くなるのはオリジナルに忠実に設計です。

Apollo Unisonの相互作用

ゲインステージ・モードのコントロール

プラグインがApolloのConsoleアプリケーション内のプリアンプチャンネル専用のUnisonインサートで起動され、Apolloがゲインステージ・モードになっている場合、インプットアッテネーターは、Apolloのプリアンプゲイン・ノブをコントロールできる第2のゲインステージとなります。



このゲインステージがゲインステージ・モードで選択されている場合、右図のようにプラグインのインターフェイスが囲まれ、ハードウェアノブ、プラグインのソフトウェアノブの双方向で調整が可能であることを示します

ヒント: Apolloのプリアンプゲイン・ノブを3秒間押し続けると、ゲインモードを開始/終了を切り替えることができます。ゲインステージ・モードでは、Apolloのプリアンプゲイン・ノブを押して、使用可能なゲインステージを切り替えることができます。詳細については、Apolloソフトウェアマニュアルを参照してください。

レベル

レベルコントロールは、アッテネーション回路に続くインプットプリアンプのゲイン量を設定します。レベルコントロールと一緒に入出力アッテネーターを慎重に調節することでクリーンなサウンドからカラーのついたサウンドまでさまざまな音色が得られます。ヘッドルームメーターは、これらの設定を行う際に、信号がディレイ回路にどれくらい“強く”入っているかを確認するために便利です。

Apollo Unisonの相互作用

デフォルトのApolloコントロール

Apolloのconsoleソフトウェア内のプリアンプチャンネルのUnisonインサートにプラグインをインサートすると、Apolloのプリアンプゲイン・ノブ（インターフェイスのハードウェアコントロール）、またはプラグインインターフェイスのソフトウェアノブでレベルを調整可能です。このインタラクティブな会話は、Apolloがゲインステージ・モードでない場合でも使用可能です。

ゲインステージ・モードでのコントロール

Apolloがゲインステージモードにある場合、レベルはApolloのプリアンプゲイン・ノブでコントロールできる最初のゲインステージです。このゲインステージがゲインステージ・モードが選択されているときは、プラグインインターフェイスがオレンジのリングで囲まれます（右図）。ハードウェアのノブ、またはプラグイン上のソフトウェアノブを使い双方向で調整可能です。



ヘッドルームメーター

ヘッドルームメーターは、ディレイ回路のインプットに存在するシグナルレベルを表示します。これはインプット・アッテネーターとレベルコントロールを設定し、ディレイ回路のインプットがより、リニアなレンジ（薄暗く点灯：0dB以下）で動作しているか、またはサチュレーションやディストーション（強く点灯：0dB）を得ているか確認するために役立ちます。

注：オリジナルのハードウェアと同様にヘッドルームメーターは、シグナルが実際にクリップする前にオーバーロードを示します。

ミュート

オリジナルのハードウェアでは利用できないミュートスイッチは、ディレイプロセッサーに入力されるドライシグナルをミュートしますが、ウェットプロセッサーのアウトプットはミュートされません。ミュートスイッチが点灯時は、ミュートされています。

プログラマー

このセクションには、ディレイタイム、エフェクトモード、ホストシンクに使用するコントロールがあります。



プログラマー・エレメント

モード

モード機能は、ディレイプロセッサーの入出力ルーティングモードを選択します。モードボタンをクリックすると、使用可能なモードが順番に切り替わっていきます。Shiftキーを押しながらクリックすると選択順が逆行します。使用できるすべてのモードを含むドロップダウンメニュー(右図参照)で選択する場合は、赤のエフェクトLCDディスプレイをクリックしてください。



以下のルーティングモードを使用することができます。:

- **モノイン/モノアウト:** モノフォニック入力と出力
- **モノイン/ステレオ“B” +/- アウト:** R標準的なウェット/ドライを合計したシグナルを1つのチャンネルにルーティングし、同じシグナルを他のチャンネルへ“異なった”(位相のずれた)ミックスをルーティングします。これにより、モノラルシグナルに劇的なステレオイメージング効果を与えることが可能になります。
- **モノイン/ダイレクトL-エフェクトR:** このモードでは、モノラルシグナルを受け取り、ドライシグナルを左、処理後のシグナルを右チャンネルでアウトプットします。
- **モノイン/エフェクト L-ダイレクト R:** このモードでは、モノラルシグナルを受け取り、処理後のシグナルを左、ドライシグナルを右チャンネルでアウトプットします。
- **ステレオイン/ステレオアウト:** このプラグインのみのモードは、ステロ絵シグナルに真のステレオプロセッシングを行います。このオプションは、オリジナルのハードウェアでは不可能です。

モードに関する注意:

- SDD-3000がモノインで(1、2、3、4)の場合、ステレオシグナルが入力されると左側のインプットのみが処理されます。
- プラグインをモノイン/モノアウト設定でインサートすると、モード1(モノイン/モノアウト)のみが使用可能です。この場合、ドロップダウンメニューの他のモードは選択できません。

ディレイタイム・ディスプレイ

LCDディスプレイには、設定中のディレイタイムが表示されます。SYNCがオフの場合、ディレイタイムは、ミリ秒単位で表示されます。SYNCがオンの場合、ディレイタイムはホストアプリケーションで設定中のテンポのリズミカルなサブディビジョンとしてを表示します。

ディレイタイム・ディスプレイは、ディレイタイムの入力やテンポ・サブディビジョンの選択に使用することができます。SYNCがオフの場合、ディスプレイをクリックし、テキスト入力を使用して直接ディレイタイムを入力することができます。SYNCがアクティブな(ディレイタイム・ディスプレイにカンマが表示されている)場合、ディスプレイをクリックしてドロップメニューから選択可能なサブディビジョン値を表示、選択することができます。

SYNC

SYNCをオンにすると、ディレイタイムは、絶対時間ではなく、ホストのテンポにシンクします。SYNCディレイタイムは、拍/小節のリズミカルなサブディビジョンです。SYNCボタンをクリックして状態を切り替えることができます。;ディレイタイム・ディスプレイに“コンマ”が表示されている時は、SYNCがオンになっています。

SYNCモードでリズムディビジョンを調整するには、“アップ/ダウン”ボタンを使用するか、ディレイタイム・ディスプレイをクリックして右のようにドロップメニューから選択可能なリズム・サブディビジョンを選択してください。

注: この機能の詳細については、UADシステムマニュアルの“テンポの同期”の章を参照してください。



ダウン/アップ

ダウン&アップ・ボタンによってディレイタイムを指定することができます。SYNCをオフにすると、これらのボタンはディレイタイムをミリ秒単位で上下させます。SYNCをオンにすると、これらのボタンは使用可能なサブディビジョンを増減させることができます。

ヒント: ダウン、またはアップボタンを押し続けると、ディレイタイムが変更されるレートが増加します。

リジェネレーション

このセクションでは、ディレイホールドと、フェイズエフェクトのウェットシグナルの反転や、ディレイのフィードバックとフィルタリングのコントロールを提供しています。



リジェネレーション・セクション

ディレイインバート(INV)

INVオプションをオンにすると、ディレイシグナルの極性が反転します。スイッチが点灯しているときは極性の反転が適用されています。

極性の反転は、フェイズキャンセルや相互作用によって独自の“ホロー”感のあるコーラスやフランジャー・エフェクトを作り出すことができます。

ホールド

ホールドをオンにすると、もう一度ホールドボタンが押されるまでディレイプロセッサ内の1023 msのコンテンツ全体が無限に繰り返されます。スイッチが点灯しているときはホールドが適用されています。

ホールドは、使用している設定に応じて様々なタイプのクリエイティブな効果を得るのに役立ちます。他のコントロールは、ホールドがオンの時も機能しており、ディレイのメモリーコンテンツを操作することも可能です。

フィードバック

フィードバックは、ディレイのインプットにフィードバックされるディレイシグナルの量をコントロールします。低い値ではリピート回数が少なくなります。高い値では、ディレイを無限に繰り返し替えずことができ、それぞれを時間の経過とともにカラフルな方法で“劣化”させることができます。

ヒント: ホールドをオンにすると、高いフィードバック値によってシグナルの色付けが行われずに“無限の”リピートが得られます。

フィルター

4ポジションのロー、ハイ・フィルターサーキットがディレイシグナルに適用されます。“FLAT”に設定すると、ディレイシグナルは影響を受けません。フィルターは帯域に制限を加えたディレイエフェクト・サウンドを作るために使用します。

LOW: スイッチをこの位置に設定すると、ディレイシグナルから低周波数帯のエネルギーからフィルタリングされます。

HIGH: スイッチをこの位置に設定すると、ディレイシグナルから高周波数帯のエネルギーからフィルタリングされます。

モジュレーション

このセクションでは、ディレイタイムを調整するための波形、強度、スピードコントロールが含まれています。



モジュレーション

ウェーブフォーム

ウェーブフォームスイッチは、ディレイタイム・モジュレーターのシェイプを選択することができます。以下のオプションが使用可能です。:

- **トライアングル**: 斜めのスロープを持つ、周期的なエフェクトの上下のシェイプ
- **スクエア**: 垂直の直線スロープを持つ周期的な上下のシェイプ
- **RND (ランダム)**: サンプル&ホールドサーキットから派生したランダム化された動き

注: オリジナルのハードウェアと同様にフリーケンシーはRNDモードではオフになっています。フリーケンシーLEDは、RNDモードでも動作を示しますが、フリーケンシーコントロールは実際には何もしていません。

- **ENV(エンベロープ)**: このモードでは、オーディオインプット・シグナルにエンベロープフォロワーを使用し、インプットシグナルのダイナミクスに従ってディレイタイムをシフトします。

インテンシティ

インテンシティコントロールは、ディレイタイム・モジュレーションの量を設定します。低い設定では、時間の経過とともに微妙な変化が加えられます。高い設定の場合は急激なシフトが得られます。

フリーケンシー

フリーケンシーは、ディレイタイム・モジュレーションのレートを設定します。ENVを選択すると、このコントロールはエンベロープフォロワーのリリース時間を設定します。

注: ウェーブフォームがRNDに設定されている場合は、フリーケンシーは無効になります。

フリーケンシーLED

フリーケンシーコントロールの右側にあるLEDは、モジュレーションサーキットの現在の値を反映するよう照度が変わります。LEDが明るくなると、モジュレーションサーキットは高い値となり、暗くなると低い設定になります。

バランス

これら2つのコントロールは、オリジナルのシグナルと処理後の信号のブレンドやアウトプットシグナルのステレオポジションを提供します。



バランス

エフェクト

エフェクトコントロールは、アウトプットに入ってくるウェットとドライシグナルのミックスを設定します。中心位置では、1:1の割合でブレンドします。コントロールがダイレクタラベルに向かって反時計回りに回ると、処理後の信号が減少し、最終的には100%のドライシグナルが得られません。逆にコントロールがエフェクトラベルに向かって時計回りに回転すると、処理されたシグナルが増え、最終的には100%ウェットになります。

ポジション

オリジナルのハードウェアには無いポジションコントロールは、ドライ/ウェットブレンド・シグナルの出力をステレオフィールド内に連続的に配置します。コントロールが“L”ラベルに向かって反時計回りに回転すると、右アウトプットチャンネルが減衰され、最終的には左のシグナルのみが聴こえます。コントロールが“R”ラベルに向かって時計回りに回転すると、左アウトプットチャンネルが減衰され、最終的には右のシグナルのみが聴こえます。

プラグインがモノイン/モノアウトで使用されている場合、このコントロールは中央の位置でロックされます。

ヒント: ラベル“0”をクリックすると、ノブを中央に戻します。

アウトプット

このセクションは、従来のアッテネーターサーキットといくつかの設定を使用して最終的なアウトプットのコントロールを行います。



アウトプット

バイパス

バイパスは、ディレイサーキットを無効にしますが、アナログサーキットの機能を音色は有効になったままです。バイパススイッチのLEDが点灯中は、バイパスが有効になっています。

ヒント: バイパスが動作中にホールドがオンになっていると、バイパスを解除したときにホールド機能で使用されているループフレーズは再び聞こえるようになります。

アウトプットアッテネーター

ステップ式のアウトプットアッテネーターは、SDD-3000のアウトプットに届いたシグナルのレベルをマッチングさせるために便利です。-20 dBの設定でもっともゲインが高く、+4 dBではアウトプットゲインがもっとも低くなります。アッテネーターの設定を試すことで音色の違いを提供することができます。

注: アッテネータースイッチの値は直観的ではないかもしれませんが、数値が低いほどゲインが高くなるようオリジナルのハードウェアサーキットに忠実に設計されています。

Apollo Unisonの相互作用

ゲインステージ・モードのコントロール

プラグインがApolloのConsoleアプリケーション内のプリアンプチャンネル専用のUnisonインサートで起動され、Apolloがゲインステージ・モードになっている場合、インプットアッテネーターは、Apolloのプリアンプゲイン・ノブをコントロールできる第2のゲインステージとなります。



このゲインステージがゲインステージ・モードで選択されている場合、右図のようにプラグインのインターフェイスが囲まれ、ハードウェアノブ、プラグインのソフトウェアノブの双方向で調整が可能であることを示します

ヒント: Apolloのプリアンプゲイン・ノブを3秒間押し続けると、ゲインモードを開始/終了を切り替えることができます。ゲインステージ・モードでは、Apolloのプリアンプゲイン・ノブを押して、使用可能なゲインステージを切り替えることができます。詳細については、Apolloソフトウェアマニュアルを参照してください。

アウトプットインバート(INV)

アウトプットINVオプションをオンにすると、アウトプットで処理されたシグナルの極性が反転します。この機能のみ、またはインプットINVオプションと組み合わせて使用するとさらに多くのフェイズマニピュレーション・エフェクトが可能になります。

ウェットソロ

ウェットソロをオンにすると、ドライシグナルが完全にミュートされ、エフェクトノブを完全に時計回りに回して100%ウェットの位置に設定したのと同じ効果が得られます。ウェットソロLEDが点灯しているときは、この機能がオンになっています。

パワー

パワーをオフにするとディスプレイタイムLCDが消灯し、SDD-3000のアルゴリズムが無効になり、プラグインがUAD DSPからアンロードされます。パワーは、エフェクト処理前/後の音を比較する場合に便利です。パワーをもう一度押すとエフェクトは再びオンになります。

ヒント: UAD Meter & Control PanelでUAD-2 LoadLockが無効に設定されていると、パワーがオフの場合はUAD-2 DSPの負荷が軽減されます。



Korg SDD-3000 FAQ

UAは、Korg SDD-3000の開発にどれくらいの期間を必要としましたか？

Korg SDD-3000は、長年にわたり製造中止となっています。そして、たとえそれを見つけたとしてもユニットを修理、維持していくためのパーツの多くは生産中止されています。このディレイの多くのファンは、パーツ取りをするために他の部分が壊れたユニットを探すしかありません。これは完璧に機能するユニットが高価で探すのに時間がかかるということの理由の一部でしかありません。

私たちは、“ゴールドユニット”を探し当て、一年という長いプロセスでこのユニットに求められ、提供できるすべてのアナログとデジタルの秘密を明らかにしました。最初はアナログプリアンプとアウトプットセクションでした。JRC製のオペアンプ(その時代の多くのプリアンプ、ブースター、オーバードライブ・ペダルと同じタイプ)で満たされているアナログセクションは、ギターリグとして使用するとプッシュされる“アンプにはりつく”サウンドを作る上で非常に重要でした。

次にAD/DAコンバーターでした。最近では、16ビット、または24ビットのコンバーターに慣れている人が多い一方で13ビットの特別なディレイのために手ごろな価格の12ビットと1ビットによる設計を選択しました。今日のスタンダードとしては、低いレゾリューションであるためにディレイラインは粒が粗く、オーガニックなサウンドになりました。そのサンプルレート・ベースのモジュレーションに加えてこれはKorg SDD-3000に他のディレイにはないサウンドを与えました。これらのキャラクターは、入念に測定され、プラグイン用に再現されました。

Unisonテクノロジーを使用すると、アナログプリアンプはギターに対してオリジナルのハードウェアと同じようなレスポンスを行います。

Korg SDD-3000とはどんな機材でしたか？

今ではビンテージのラックにマウントされている80年代のデジタルディレイは、その時代で最大のギタリストの代表的なサウンドになりました。楽器に優しいアナログ入出力のステージは、多くのアーティストがパンチと明瞭さとエッジのあるサウンドでギターアンプをドライブさせることが最適だと感じました。

SDD-3000が重要と言われるのはなぜですか？

それはメジャーアーティスト、U2によるものが大きいでしょう。U2のもっとも重要なレコーディングのプロデューサーであるDaniel LanoisによるとEdgeの機材はTHE UNFORGETTABLE FIREからとてもシンプルなものであったといいます。

“複雑なリグではありませんでした。: VoxにKorg SDD-3000と好きなギターだけです。3つのコンポーネント、モノラル — これだけです。Korgの素晴らしい点は、約10dBの余裕をもってアンプをヒットできる3ポジションのレベルスイッチがあることです。たとえディレイがバイパスされていても、ギターアンプに直接接続した場合よりもオーバードライブさせることができます。”

Guitar Player Magazine - 1993

Pink Floyd のDavid GilmourのようにEdgeのサウンドは、多くギターエフェクト・マニアの熱心な議論のテーマでした。それは伝説によるものです。そしてポップス/ロック・ミュージックのためにVox AC-30を再びクールなサウンドにするために、彼はリズムカルなディレイを彼の演奏のスタイルに取り込みました。“Pride - In the Name of Love”を聴いてみてください。

UnisonはSDD-3000でどのように動作しますか？

ほぼゼロレイテンシーでUnisonレコーディングを行うには、ギターをApolloのHi-Zインプットに接続し、プラグインをApolloのconsoleアプリケーションのUnisonインサートで起動してください。UnisonはApolloのハードウェアプリアンプの物理的なゲインとインプットインピーダンスのコントロールに加えて、モデリングしたアンプのパラメーターを触覚的に双方向でコントロールすることができます。詳細については、ApolloソフトウェアマニュアルのUnisonの章を参照してください。

SDD-3000をステレオで使用するには？

SDD-3000のステレオ機能とサウンドを利用するには、ApolloのconsoleでAUXバスにプラグインをインサートし、インプットチャンネルのセンドコントロールを使用してAUXにシグナルをルーティングしてください。また、シンプルにDAWのステレオトラックにインサートすることも可能です。

UnisonプリアンププラグインはどのようにApolloの内蔵プリアンプで動作しますか？

Apolloのプリアンプは、デジタルコントロールされており、インプットからコンバーターへのハイリゾリューションで透明度の高いトランスレーションを提供しています。独特の素晴らしいサウンドが得られますが、これらのプリアンプは、Unison対応のプリアンププラグインでプロセッシングカラーを加えるための理想的な出発点として設計されています。具体的には、Unisonプリアンププラグインは、Apolloの物理的なプリアンプのアナログインピーダンスとゲインの構造をコントロールします。ハードウェアとソフトウェアが並行して動作し、クラシックなチューブとソリッドステートのプリアンプデザインを説得力をもってエミュレートすることができます。

DAWには、ドライなDIのみを送り、後にトラッキング/トーンの調整を行いたいのですが、ApolloのConsoleでSDD-3000をモニタリングのみで使用することはできますか？

プラグインをConsoleの(Unisonではない)通常のインサートスロットに立ち上げ、コンソールのインサートエフェクト機能を“UAD REC”(かけ録り)ではなく“UAD MON”(モニターのみ)に設定してください。

私はUAD-2ハードウェアやApollo 16を所有しています。それでもSDD-3000を使用可能ですか？

可能です。Unisonプラグインは、DAW内の標準のUADプラグインとしても使用することができます。またApolloのConsoleインサートでのリアルタイムプロセッシングにも使用可能です。UnisonプラグインはUAD-2ハードウェアでカラーやトーンを追加するのに最適ですが、Unisonプリアンプのインタラクティブな機能は、物理的なマイクプリアンプを持つApolloインターフェイスでのみ使用可能です。



オリジナルKorg SDD-3000ハードウェアユニット

SDD-3000のすべての視覚的、聴覚的な言及、すべてのKORG商標の使用は、Korg Incより書面での許諾を得て行われています。Hironori Fukuda、Kei Nakajima、John McCubbery、Shige Kawagoe、Yoshihiro Hashimoto、Masaki Onoに特別の謝意を記します。